No.26
November
2004
Tokushima
Prefectural
Museum

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム

第26号　2004年11月10日発行

秋のタカの渡り　―観察へのいざない―

萬宮（まみや）　翔平（しょうへい）（特別寄稿）

「ウワァーまたサシバだ！」,「アッ！，タカ柱だ！」とこんな声の飛び交う鳴門山展望台. これは日本の里山で春から夏にかけて繁殖し，子育てを終え，餌の少なくなる冬を逃れて遥か南方，東南アジアに数千キロの旅をするタカを観察している風景です．旅行カバンもパスポートも持たず身ひとつで上昇気流を上手に利用し滑空帆翔していくタカたち. 9月中旬から11月中旬まで鳴門海峡や蒲生田岬などの東海岸一帯で渡りの観察をすることができます.

いつ，どこで，どんなタカが

①サシバ（図1）

渡りをする代表的なタカ．鳴門海峡では9月中旬から10月上旬に5千羽から1万羽近くが観察できます. 9月20日過ぎの雨の翌々日が狙い目です. 少なくとも1000羽は見えます．鳴門山展望台，島田島の展望台，四方見展望台に陣取って北東方向を見ていると，はじめ豆粒だったものが段々頭上に差し掛かりタカと確認できます．この時には肉眼でもばっちり．そして，上昇気流に集まってきたタカ達は夏の夕刻の蚊柱のような，タカ柱をつくり，どんどん高度を上げ，1羽2羽とタカ柱から

図1　サシバ

図2　ハチクマ

とけて南西方向に流れて行きます．これは圧巻です．自然界のロマン！感動的な光景です．7倍から10倍の双眼鏡があればタカ達の表情も見えますよ．

②ハチクマ（図2）

サシバより羽の広い首の長いタカ．徳島では200羽から300羽くらいが見え，時期的にはほとんどサシバと一致．

③ノスリ（図3）

サシバより大きく翼角に黒い斑のあるずんぐりむっくりのタカ．ノスリはサシバ，ハチクマに混じっても渡るが，主にサシバの渡りが少なくなる10月上旬から11月下旬の間が多く，2500羽くらい渡ります．強い向かい風をうけて海上低く三々五々と渡ってくる場合が多いので観察し易く，鳴門山展望台が最適地です．

④その他のタカ

オオタカ，ハイタカ，ツミなど．小さいうえに速く単独での渡りなので識別が難しいが，おや，これは何だろうと思えますよ．

秋晴れの日のひととき，海岸線を見渡せる小高い場所で東方向を見上げてみてください．のんびりと舞っているトビと異なって尾羽の丸い厳しい顔をしたタカが一路南西方向に向かって突き進むのが見られますよ．

図3　ノスリ

随想　新選組！

西田（にしだ）　素康（もとやす）（友の会会員）

この夏，京都文化博物館で開催された『新選組！』歴史資料展を見に行った．ＮＨＫ視聴率の上昇とともに，ますます佳境に入る大河ドラマは大変な人気で，観客の流れもとぎれることのなく，まず大成功であったと思う．

時間がないので見ることができなかったが，期間中，新選組に関する映画を上映しており，「壬生（みぶ）義士伝」「新選組始末記」「燃えよ剣」「幕末太陽伝」など名作，最近作が毎日上映されていた．

また講演会など興味を引く企画が連日開催されており，有意義な時間を過ごすことができた．

さて，私にとっての新選組は映画によって始まる．その第1歩が嵐寛壽郎（あらしかんじゅろう）（1902－80）の天狗もので，これは梗概（こうがい）さえわからない幼い時からのファンで，白馬にまたがり頭布姿の鞍馬天狗が映画一杯に登場すると，拍手喝采したものである．ましてや無口の天狗が「日本の夜明けはもう近い」と云おうものなら，実にしびれてしまうのである．アラカンの天狗映画は40本を数えるというが，中でも美空ひばりが杉作を演じた角兵衛獅子は唄とともに印象深い．戦後アラカンがドサ回りで撫養の朝日座へ来た時には，実演がバレたあと彼の乗った人力車についてゾロゾロ歩いた．が，その行き先はなんと花街であった．かなりの艶福家であったらしい．高校1年生の春のことである．

映画と並行して夢中になったのは，「オール讀物」（文芸春秋社）である．大佛次郎作鞍馬天狗シリーズで，テング症候群にかかってしまった．しかし，これは私ひとりのみであるまい．同世代のほとんどが1度はかかっている筈である．

幕末は，「勤皇ＶＳ佐幕」という単純な図式で，現在のように新撰組が歴史の中でどう位置づけされているのか関心もなく，勤皇方は正で新選組は邪または悪という設定で，優男（やさおとこ）で剣には弱い勤皇

池田屋騒動の址にたつ石碑

方（志士と呼ばれていた）が，近藤勇や土方歳三率いる新選組に追いつめられ，あわや！という時に必ず天狗があらわれ，志士を救うという単純パターンに，ファンは心底惚れこんだのである．

しかし近藤勇だけは別扱いで，天狗との友情も盛りこまれて俳優も大物の役者が演じていた．

話をもとにもどそう．数ある展示品の中に島田魁の「英名録」を見た．隊士150名の氏名と出自が記載されたもので識者の間でも有名なものである．その中に阿波出身者が5名入っていた．山崎烝・加納鷲雄・木下厳・神崎一二三・柳田三二郎である．文献によると山崎は副長助勤（局長補佐役）で，加納は伍長，神崎は会計方，他は平同士である．山崎の肩には阿波徳島とあるが，他の資料にはいずれも大阪出身とある．加納については伊豆・阿波とあり永倉新八（大正4年没）の「同志連盟記」他には御府内浪士とある．加納は参謀・伊東甲子太郎派で，後年，新選組を脱走し官軍に投じ，大久保大和と変名した近藤勇が下総流山で捕縛された際，面通しをした人物である．見方によれば裏切り者であり，阿波出身者でなく安堵する．何故に島田は伊豆・阿波と書いたのか今後の研究対象となるであろう．

ちなみに彼は伊豆太郎の別名をもつ・木下厳も後に伍長となるが会津で戦死している．神崎は島田に脱走兵と刻印を打たれ，柳田もあまり活躍していない．

本年6月に出版された「新選組大辞典」を繙くと，そのほか前野五郎，馬越三郎，村上俊五郎らがある．前野は開拓判官となった岡本監輔（後の徳中校長）について蝦夷を歩き巨万の財をなしたことで有名となる．馬越は美男であったそうだが池田屋事件以前に男色の件で離隊，村上は貞光村の出自で元は大工，阿波浄瑠璃の三味線上手であったが剣術は天才であったという．粗暴な性格でよく喧嘩をしたらしい．天保5年－明治34年と生没年も明確である．

いずれにしても新選組隊士ほど末路のあわれな者はいない．鳥羽伏見の戦い以来幕軍総崩れの中にあって，退潮の渦に逆らい江戸，信州，そして会津まで落ちのび，はては函館まで命の続くかぎり，しかも負け戦と知りながら武士？の面目を通した悲劇の主人公たちの集団であった．

新選組ブームの折から，こうした先人の足跡を追うのも一興であると思うが―．

○参考文献

子母沢寛「新選組始末記」（1970 角川文庫）

永倉新八「新撰組顛末記」（1999 新人物住来社）

京都壬生の新選組駐屯地

博物館紹介 24

那賀川町立歴史民俗資料館

西村（にしむら）　富子（とみこ）（友の会会員）

那賀川の河口に広がる穀倉地帯の中に，昭和63年4月に完成した校倉を型どった那賀川町立歴史民俗資料館があります．私は隣町の羽ノ浦町に住んでいますが，2年程前に初めて資料館を訪ね当地が那賀川の恵みを受け発展してきたこと，また阿波公方が270年の長さにわたり居を構えていたことなどから，その歴史を物語る資料の数々に感銘を受けたものです．

民俗資料品2526点，阿波公方ゆかりの品22点が所蔵されています．

○民俗資料品について

木簡：古くから稲作がなされ，米を奈良の都へ送った時の符札“木簡”が奈良の平城宮跡から出土したものです．

農具：江戸時代から昭和40年頃まで使われていた米作りの道具．

木工業：那賀川の上流は降雨量が多く日本有数の山林で平島港は，京への積出港でした．やがて製材，木工業が発展．

漁業：紀伊水道と那賀川に面しているため海，川の漁業が発展し，手仕事で作られた魚具など．あと明治大正昭和の戦争に関するもの，しじら織の創始者海部ハナについてなど興味深いものです．

○公方ゆかりの品について

御理解の参考になるかどうか，阿波公方について記してみます．

応仁の乱以後の京都と阿波の戦乱，足利尊氏の末裔14代将軍義栄はじめ9代にわたる阿波公方たちの権力争いが繰り広げられた．室町幕府10代将軍足利義稙（よしたね）は京より淡路へ移り，阿波に来て上洛を企てたが撫養で病没した．養子義冬は阿波の守護細川持隆に迎えられ，平島庄赤池の西光寺を仮の宿舎とした（1532年）．その後古津村平島塁を修築して移り住んだ．これが初代阿波公方義冬で，その館は平島館とよばれていた．その子義栄は室町幕府14代将軍となったが，織田信長が足利義昭を奉じて上洛したため，阿波に帰り病没した．阿波は細川，三好，長宗我部と推移するものの，公方家の伝統的権威は保証されてきた．世は安土桃山時代も過ぎ江戸時代に入った．阿波藩主蜂須賀氏は公方家近くの権力を引き下げる政策をとり，公方家は家臣一同窮迫していった．

このような変遷の中で，人々からは公方様と親しまれ，京の文化や学問を広めるなど多くの影響を与えた．しかし歴代公方の不満はついに9代公方義根に至って爆発し1805年阿波国を去り紀州へ，更に京都へ帰っていった．

200年後の今，平島館の建物はこの地に残っていませんが（一部小松島の地蔵寺，阿波市西方の吉祥寺に移建されている）資料館の傍らに小丘があり屋敷跡の木標が建てられ，不動尊の石像と数個の墓石が残っています．那賀川町赤池の西光寺には室町幕府10代，14代将軍をはじめ歴代公方の墓が残っています．資料館をみた後，公方ゆかりの遺跡を訪ね，おもかげを追ってみては如何でしょうか．是非おすすめいたします．

那賀川町立歴史民俗資料館

◆開館時間：午前9時～午後4時30分
（入館は4時まで）
◆休　館　日：毎週月・火・祝祭日
年末年始（12月28日～1月4日）
◆入　館　料：大人200円（20名以上団体100円）
中学生以下無料
◆交通案内：ＪＲ牟岐線　西原駅より東へ徒歩15分，または中島駅より北へ徒歩30分
◆所　在　地：徳島県那賀郡那賀川町大字古津字居内339-1
TEL／FAX　0884-42-2966

友の会行事報告

初秋の１泊研修を終えて

9月11日（土）・12日（日）の2日間，初秋のバス研修を行いました．晴天のもと総数41名で，蜂須賀氏と戦国大名のふるさとを訪ねて岐阜･愛知方面に行き，以下のところを見学しました．

1日目：関ヶ原古戦場跡－犬山城－曼陀羅寺

2日目：愛知県陶磁資料館－蜂須賀村と蓮花寺

参加者の皆さんからは，次のようなご感想が寄せられました．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○「蜂須賀氏の故郷をたずねて」

坂東（ばんどう）　直道（なおみち）（友の会会員）

目的が明確で，焦点化された研修旅行は実り多いものでした．

関ヶ原古戦場では戦いの3原則「天の時，地の利，人の和」の和を欠いた西軍が敗れたのは現代社会にも当てはまります．東軍の陣形に蜂須賀氏が位置していたのは初耳でしたが，阿波蜂須賀の由来になったと想像しました．

犬山城の3層5楼の雄姿は木曽川の景観とマッチし風光明媚そのものでした．城主がたびたび変わる中で古城がよく残されたものだと思いました．

曼陀羅寺では蜂須賀氏と寺との関わりがよくわかりました．家政の手習いの机が見られなかったのが残念でした．正勝母方の里（生家）や宮後八幡宮を訪れ地域住民が地域の歴史を発掘し，保存保護しようとする姿勢に感心しました．祖先の残した文化遺物を大切にし，次世代に残すのは私たちの責務だと思います．地域の歴史文化の発掘，保存，伝承に積極的に関わりたいと思いました．

愛知県陶磁資料館では，日本や世界各地の遺跡から発掘された古陶器が大量に広範囲に展示され歩き疲れましたが，見どころが多く時間不足でした．

蓮花寺の仁王門の荒廃は残念でした．仁王さんの修復を望んでいます．寺に対する家政や蜂須賀氏の思い入れがよくわかると共に顕彰会の働きに感心しました．

最後になりましたが，毎年の事ながら素晴らしい資料準備いただき見学時，見学後の貴重な参考資料となりました．自然課（地学）からも参加いただけると幅広く研修できたと思うのは私の欲目でしょうか．木曽川の岩石や寺院や堤の礎石，上流の地層についても勉強できたと思いました．個人ではとてもできない勉強をさせていただき感謝いたしております．ありがとうございました．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○蜂須賀氏の故郷を訪ねて思うこと

中條（ちゅうじょう）　文（さとし）（友の会会員）

阿波の殿様蜂須賀家は私にとって，城跡の散策と歴史小説を通じて親しむ程度の知識でした．今回の１泊研修は，戦国時代の濃尾平野の史跡と蜂須賀氏の出里を訪ねる旅，何かわくわくした気持ちで参加しました．

関ヶ原古戦場は想像したより狭隘（きょうあい）な地形に驚きました．東西20万の大軍が激突した状況の中で，生死をかけた武将の心境に思いをはせました．これまでの断片的な知識の中で，松尾山の小早川秀

蜂須賀家の菩提寺であった蓮花寺の見学

秋の目線で決断と苦悩を考えました. また, 笹尾山に布陣した西軍の石田三成は, 傍観する部隊, 反旗を翻す自軍を見て何を考え敗走したのか，戦国の武将としては器量不足を感じました. 徳川家康は, 百戦錬磨の戦略・戦術を駆使して勝利したように思います. 特に資料の記述と実地の地形に立ち, 広い視野で戦史を理解したいものです.

車窓から見る濃尾平野は豊かな穀倉と農民が見え, 武将を輩出する土壌があったように思います. 蜂須賀家は土豪の家から立ち上がり，乱世を生きて一国一城の主となったのちも故郷を大切にしたことを誇りに思います．また出里の人々も蜂須賀家に愛着を持ち．史跡を大切に保存しているのを見て嬉しくなりました.

陶磁資料館の展示物は，陶磁器の種類，年代ごとの発達の様子, 名品の数々, 素晴らしいものでした．日本の焼き物が外国より時代の遅れはありましたが, 近年, 飛躍的に質が向上し, 今では凌駕しているように感じました.

今回の研修は，複数の見どころがあり楽しく研修できました. 次回は植物・地質・古墳も加えてお願いします.

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○本田（ほんだ）　壮一（そういち）（友の会会員）

心配だった天候も好天に恵まれ，かさを持参したのは, 私ひとりのようであった. 岐阜県, 愛知県で，彼岸花をたくさん見た秋の２日間でした.

関ヶ原が盆地状の地形で, 3つの街道の交差点であること, 犬山城の急な階段, 天守閣からの木曽川の展望, 曼陀羅寺, 郷土史家が場所を同定したという陣地を１日目に見学しました.

宿は,「すいとぴあ江南」. 展望タワー，ジムもあり, 部屋に浴室, トイレも付いているきれいな建物でした.

2日目は，陶磁資料館で，窯（かま）を見学したり，世界の土器を見ました. 近くで, 来年3月開催の愛知万博の工事が進んでいることを知りました．私は大阪万博でわくわくした世代で，今度の万博の前売り券も購入し, 期待しています. 名古屋市のホテルで昼食の後, 歴史民俗資料館では, 古文書の現代語対訳を買い求める人が参加者の中に多数いて, 私の知らない世界があるのを知りました. バスの運転手さんも迷った, 美和町. 訪れたお寺で記念の木の実を頂きました.

知的好奇心を満たす，歴史紀行の旅をありがとうございました. 友の会役員の方, 博物館学芸員，普及員の皆様お世話になりました.

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○久次米（くじめ）　義文（よしふみ）（友の会会員）

関ヶ原の戦いは，これまで歴史で習い，また数々の物語などで読んできましたが，現地をこの眼で見たのは今回の友の会研修旅行が初めてでした.

特に明治初頭，当時の日本陸軍が招聘したドイツの名参謀メッケルを以て「この陣取りでは西軍の勝ちしかない」と云わしめた両軍の配置状況など是非この眼で見たかった長年の念願が叶えられたばかりでなく，蜂須賀発祥の地など盛り沢山に見られた今回の計画に参加させてもらい大いに満足した次第です．ありがとうございました.

このような企画は今後も楽しみにしています. 以上御礼旁々ご報告まで.

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○林（はやし）　タキ子（こ）（友の会会員）

愛知県陶磁資料館はすばらしかった．中でも日本の縄文土器から始まる歴史的展示は圧巻だった. 特に何千年も昔の縄文土器が, 目の前に完全な姿で並んでいるという，信じられない事実に感動．その美しい模様ややわらかい肌合いに見とれ，作者や使った人々のことを勝手に想像した．主に煮炊きに使ったようだという説明に，調理のありさまや分けあって食べる人たちの顔など思い描いて尽きなかった.

良い物を見た喜びが，帰ってから増幅して，会う人ごとに「縄文の土器は……」としゃべりまくっている．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○堀部（ほりべ）　るみ子（こ）（友の会会員）

蜂須賀氏ゆかりの土地をめぐる1泊旅行に参加させて頂き，有り難うございました．淡路島に住む者にとっては蜂須賀氏よりも稲田氏に近親感を抱きがちですが，今回の岐阜・愛知方面行きは，今まで書物でしか触れたことのなかった蜂須賀小六家政を，より身近に感じることができました．

また，考古学･焼き物が好きな私にとりまして，窯跡や陶磁器の数々は胸おどるものがありました．

次回はぜひ，淡路地方史研究会の日帰りバス旅行で関ヶ原方面へ出かけたいと思います．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○匿名（友の会会員）

「百聞は一見に如かず」まさに関ヶ原の古戦場を歩いてよくわかりました．

何度も関ヶ原の図や文は見ましたが地形全体の感じは今回初めて体験することが出来ました．

蜂須賀氏の故郷をたずねて，信長･秀吉などの出発地は京の都との距離が程良く，地の利を得ていたのではと思いました．また，歴史が面白くなりました．

大変お世話になりありがとうございました．

犬山城にて

友の会行事報告

八万の昔を調べよう

○南部（なんぶ）　洋子（ようこ）（友の会会員）

10月17日（日）の「八万の昔を調べよう」でいろいろな方から直接お話を伺うことが出来て，ねらい通りの催しとなりました．

王子神社下では，宮司さんからお松処刑に至る逸話を，夷山地区では地元の方から「弁財天」･「庚申さん」･「鎮守さん」のお話を伺い，古墳の修復現場にも行き会わせました．また円福寺では，ご住職夫妻から丁寧なご案内があり，寺内や蛭子神社跡などくまなく見て回ることが出来ました．

最後の天一神社へは草が生い茂る道なき道を登り詰め，ようやく境内に至るという得難い経験も出来，好天にも恵まれ楽しい探索をすることが出来ました．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○岩本（いわもと）　方克（まさかつ）・和恵（かずえ）（友の会会員）

初めて参加した友の会行事が私の住んでいる八万地区ということで，とても興味深く楽しいものでした．特に夷山の石垣や地神塔，庚申塔など身近にありながら意味や由来を知らず気にも留めなかったがとても身近感が沸きました．さっそく子供たちにも話してあげたいと思っています．次の行事が楽しみです．

銅の鳥居八幡神社にて

○日下（くさか）　静代（しずよ）（友の会会員）

—登るほど足もと萩の風の中—

晩秋の日差しに押されて今に残るものを手で触れ目で確かめて，心地良い汗をかきながら歩ききったる八万町．

石塀の道すがら，地元の方々との話し合いや円福寺のご住職のお話は心に残りました．図書館へまた，古里へ，何気無い通り道がこんなに歴史と美しい文化の町だったのだとあらためて関心を持つようになりました．計画くださった皆様にお礼申しあげます．

●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●●

○高田（たかだ）　スミ子（友の会会員）

初めて参加させていただきました．健康面，学習面，大変有意義な1日を過ごさせていただき，ありがとうございました．

先生方のご説明を受け，私自信，感動があり大変良かったです．これからも晩学ながら歴史に興味を持ち，出来るだけ参加し，勉強したいと思いました．今後ともよろしくお願いします．

参加しませんか

「和三盆製造見学と藍染め体験」

阿波和三盆糖は，昔から高級和菓子につかわれる砂糖として有名です．今年度最後の行事では，板野郡上板町泉谷の岡田製糖所で和三盆糖作りを見学します．また同町の技の館で藍染めを体験します．

実施日は **1月22日（土）** です．くわしい日程，応募方法などはチラシをお送りしますのでご覧下さい。

事務局からのお知らせ

来年度友の会 行事スタッフ募集！

今年度から，友の会行事は友の会会員が主体となって運営されています．博物館主体ではなく，皆様方のご希望に基づいた行事運営をとの考えから来年度も皆様のご希望をもとに行事を計画したいと思います．こんな行事があればいいのにとか，この行事ならまかせてなど，皆様の積極的な企画をお待ちいたしています．

皆様方の積極的なご参加をお待ちいたしております．お申し込み，お問い合せは事務局まで．

友の会グッズ完成

正藍染めハンカチ「ドウタクドン」ができました．会員価格1枚500円で販売中です．くわしくは友の会事務局まで．

徳島県立博物館友の会会報
アワーミュージアム
No.26 November 2004 Tokushima Prefectural Museum
第26号
2004年11月10日　発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070　徳島市八万町向寺山　徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636　FAX 088-668-7197